

スパークス 宇宙ファンドとしての取り組み紹介

SPARX

スパークス・イノベーション・フォー・フューチャー株式会社

鬼頭 正

長谷川 翔紀

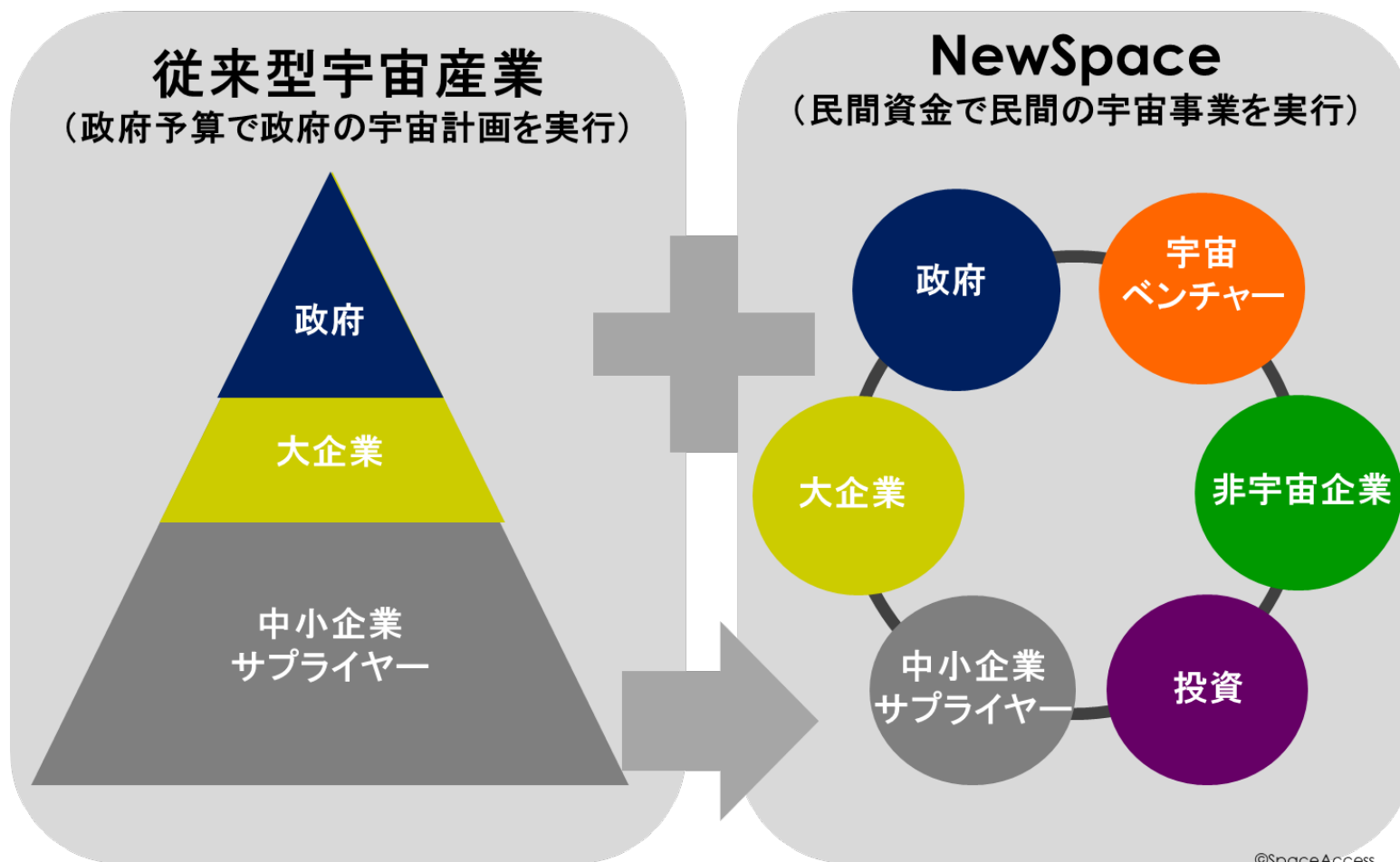


当資料は、スパークス・イノベーション・フォー・フューチャー株式会社が情報提供を目的として作成した参考資料です。有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。この資料の著作権はスパークス・イノベーション・フォー・フューチャー株式会社に属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

- 1. 宇宙産業の今後**
- 2. スパークス紹介**
- 3. 宇宙ファンドのこれまでの取組み**

1.宇宙産業の今後： ①宇宙産業の構造

- 従来の国家プロジェクト中心の官需市場から、ベンチャー企業が主導する民需市場に移行中。幾つかの市場セグメントが形成されつつある。

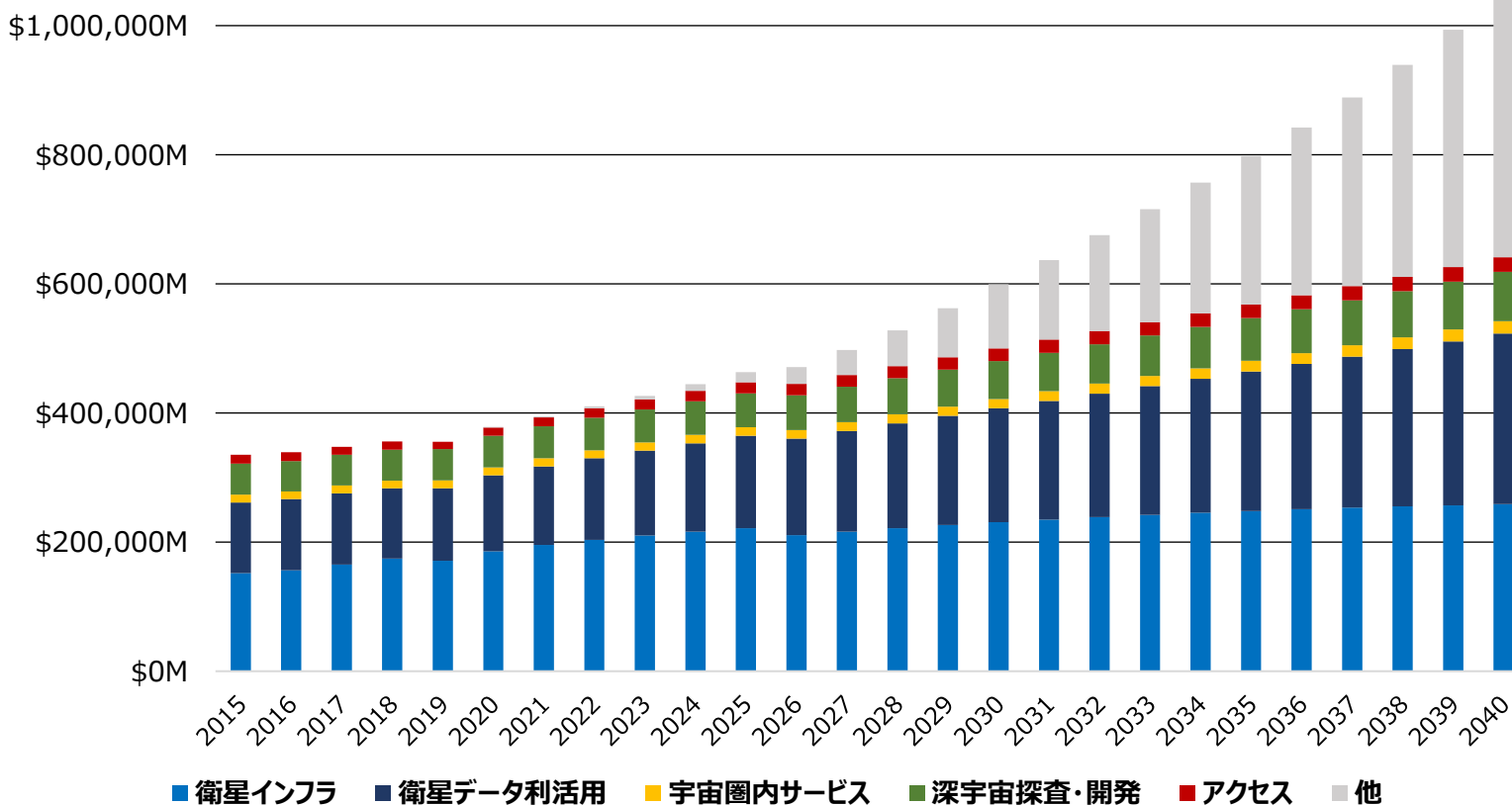


©SpaceAccess

1.宇宙産業の今後：②拡大する宇宙ビジネス市場

- モルガン・スタンレーは2040年代に宇宙ビジネス市場規模が1.1兆ドルに達すると予測。
- かかる市場に加え、衛星通信による指数関数的な二次市場の成長にも寄与。

宇宙ビジネスの世界市場規模予測

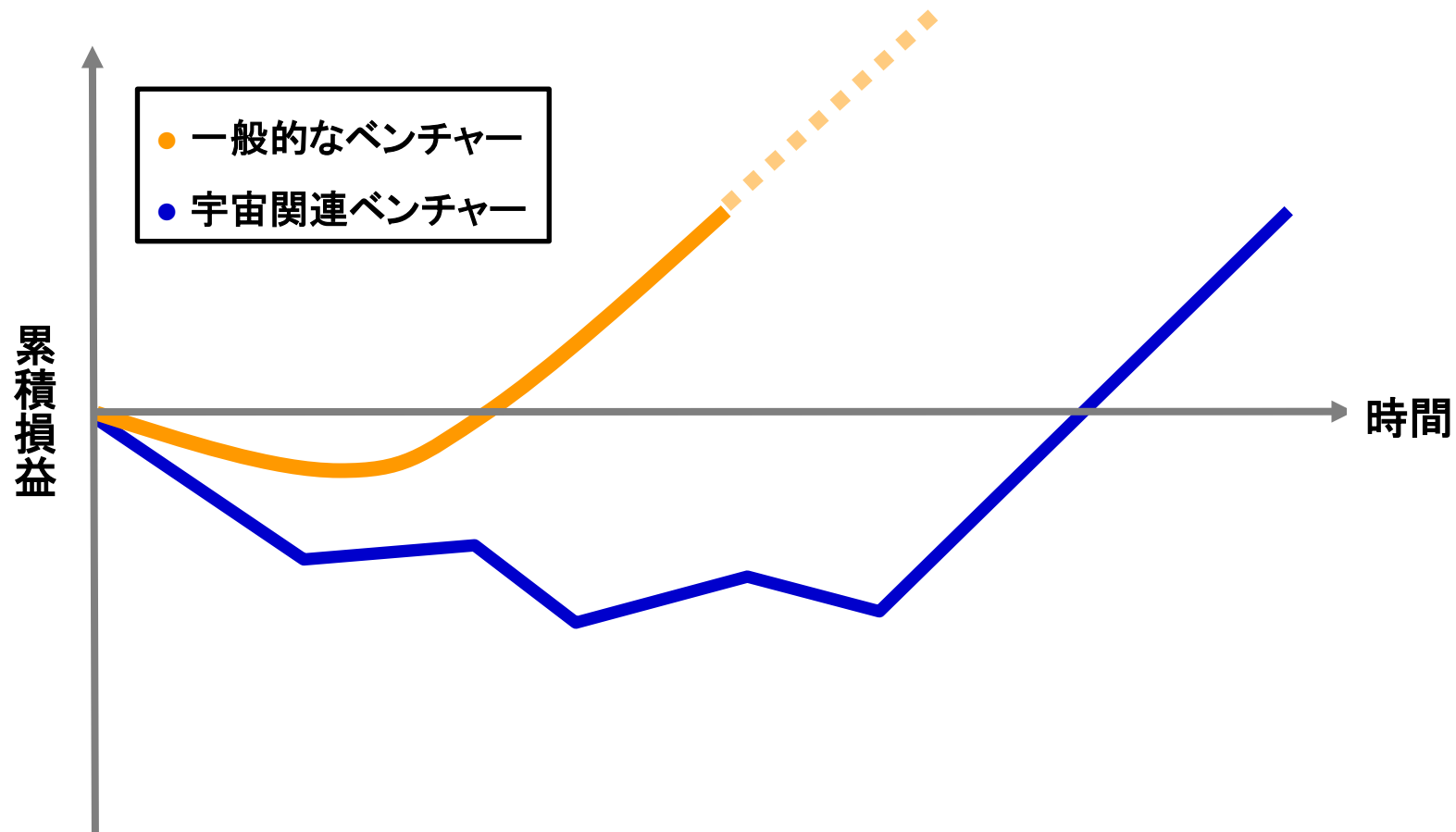


出所：Morgan Stanleyの調査を参考にスパークスにて作成

1.宇宙産業の今後： ③資本市場への橋渡しとエコシステム拡充の担い手が必要

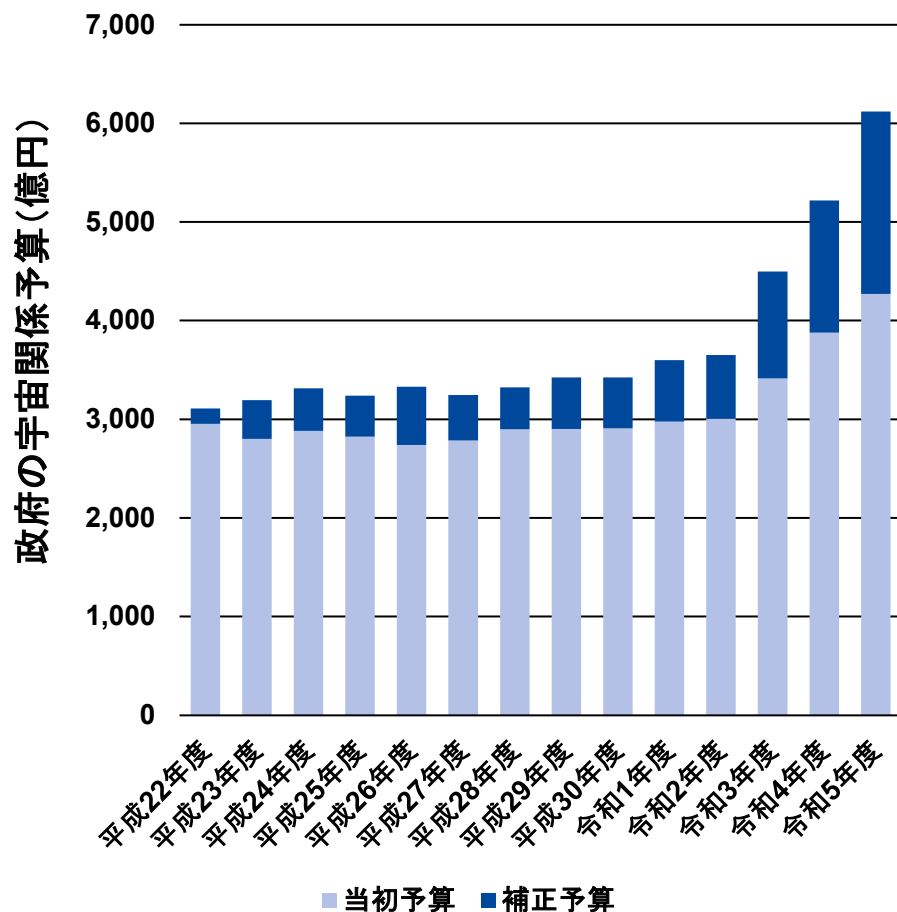


- 宇宙ビジネスには多くの時間と多額の資金が必要となる一方、我が国には資本市場への橋渡し役を担う投資家が少ない。
- 官需主導から民間主体の産業育成の移行期。ベンチャー×エスタブリッシュメントのパートナーシップによる相乗効果等のエコシステム創生への触媒役が引き続き必要。



1.宇宙産業の今後：④ 拡充する政府関連予算の利活用

- 日本政府の宇宙利用振興策(含む安全保障関連)が拡充傾向、この14年で倍増。
- 加えて岸田内閣の「スタートアップ育成5か年計画」の下、投資先企業群が利活用可能な政府支援策も拡充。1兆円規模に。



経産省を中心にスタートアップ支援施策を実施中

事業名	
宇宙が特記された予算	<ul style="list-style-type: none"> ・SBIR ・事業再構築補助金 ・衛星データ利用ソリューション開発支援 ・衛星データのグリーン分野での活用に関する懸賞金事業 他多数
非宇宙予算	<ul style="list-style-type: none"> ・ディープテック・スタートアップ支援事業 (量産化実証では最大25億円の助成) ・ものづくり補助金 ・START プロジェクト ・アジアDX補助金 ・副業、兼業支援補助金 ・IT導入補助金 他多数

(出典) 内閣府資料等を基にSPARX作成

2. SPARX紹介：①SPARXグループとイノベーション投資の沿革



「世界で最も信頼、尊敬されるインベストメント・カンパニー」を目指して1989年に創業

1989年7月
スパークス投資顧問株式会社
として東京都港区にて投資顧
問業務を開始



創業以来小型株運用で注
目され、SPARXの上場株
運用の柱となる



2001年12月
スパークス・アセット・マネジメント
投信株式会社、JASDAQ市場
(当時)に株式上場



2003年
日本株式投資戦略
経営者との対話を通
じた投資

2006年4月
スパークス分割準
備株式会社を設立

2012年
東北復興ファンドの組成
国内外投資家による東北復興
のためのホテル開発投資



2013年
再生可能エネルギー投資の本格始動
再生可能エネルギー発電事業への
ファンドによる投資を展開

2015年
未来創生ファンド設定
トヨタ自動車・三井住友銀
行を主要投資家としたベン
チャーキャピタルファンド

2018年
未来創生2号ファンド設定



2019年
PKSHAと共同で
アルゴリズムファンド設定



2019年3月
スパークス・グループ株式会社株
式を東京証券取引所JASDAQ
市場(スタンダード)から東京証券
取引所市場第一部へ市場変更

2020年
宇宙フロンティアファンド
日本モノづくり未来ファンド



2021年
野村HDと共同でベンチャー投
資法人を運営するための会社
を設立

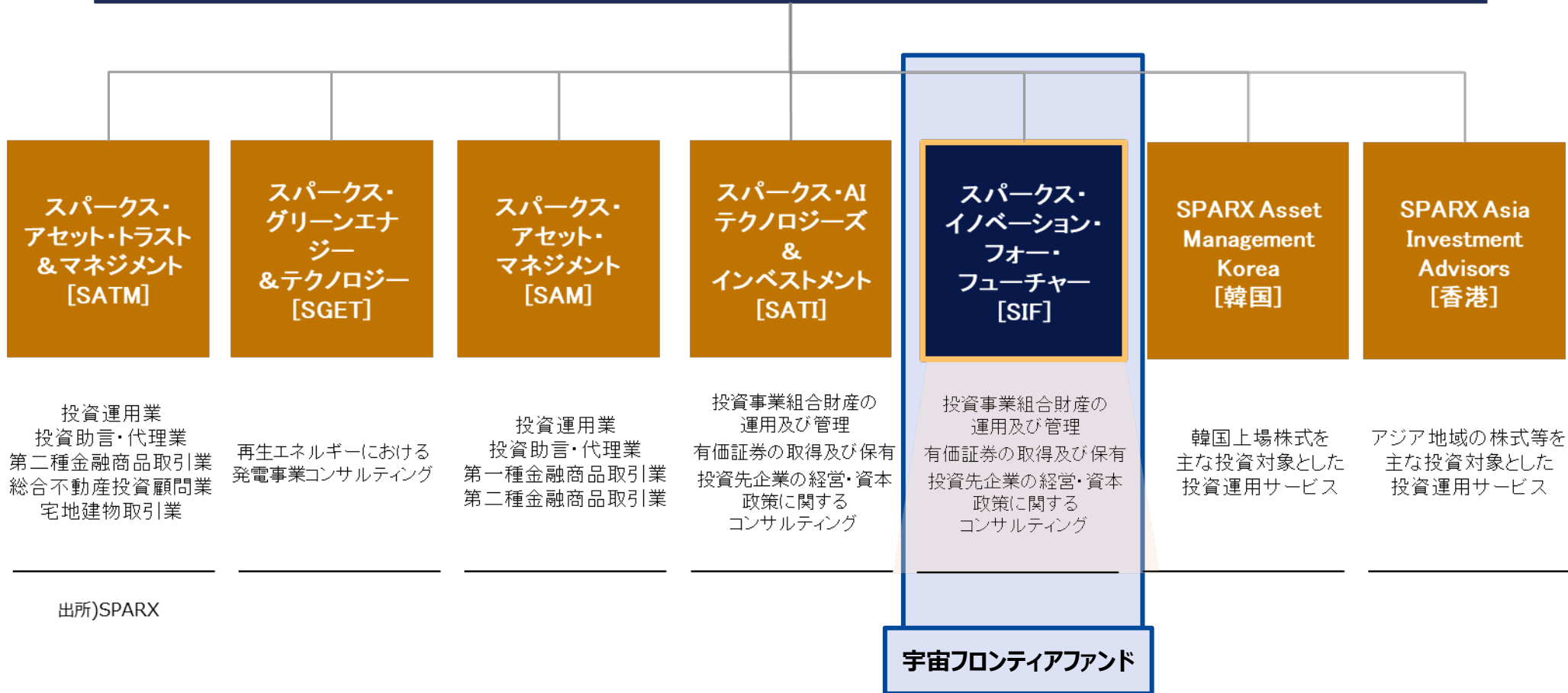
2. SPARX紹介：②グループ事業概要



SPARXグループは グループ各社を通じて次の事業を行っています。



スパークス・グループ（持株会社）



3. これまでの取り組み： ①宇宙フロンティアファンドの組成

- 2020年6月に1号ファンド設立。7社の参画により組成。
- 宇宙分野に精通した人財が投資チームに参画。第一人者もアドバイザーに集結。

パートナー
トヨタ自動車様
三菱UFJ銀行様
三井住友銀行様
みずほ銀行様
(総合商社様)
三井住友海上様
その他 事業会社様

フロントメンバー

 <p>見学 信一郎 前職にてCVCトップ</p>	 <p>大貫 美鈴 宇宙ビジネスコンサルタント、政府委員他</p>
 <p>木村 優大 宇宙ビジネスの経験多数</p>	 <p>鬼頭 正 ロケット開発と投資事業の経験</p>
 <p>長谷川 翔紀 宇宙建築設計において内外で入賞</p>	

アドバイザー

東京大学教授、NASA研究員等、本邦宇宙業界の第一人者にアドバイザーとして参画頂いております

- ① 優れた技術やユニークなビジネスモデルを持つ宇宙系ベンチャーや産業基盤を支える関連プロジェクトに投資し、その実現や成長を支援する。
- ② **本邦宇宙産業のエコシステムの拡充に寄与すべく**、宇宙と非宇宙、ベンチャーと大企業のシナジーを図り、オープンイノベーションを追求。

機能

- (1) **投資と活用**；宇宙系ベンチャーや関連プロジェクトに投資し、その成長支援と他産業との連携を通じて、当該技術やサービスの社会実装を図る。
- (2) **情報捕捉と探索**；宇宙関連技術群やビジネス、業界の最新動静を捕捉し、パートナー企業に情報提供すると共に、事業への活用可能性を探索・協働する。

3.これまでの取組み：③ポートフォリオ（2023年6月末時点）



- 12社に投資。1～3件程度の追加投資を検討中。
- 取締役派遣等を通じて諸課題へのハンズオン支援（営業開拓、技術・ビジネス面等での専門家紹介、政府との関係構築、投資先間の横展開、諸リスクの注進等）。

 <p>ispace</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年7月投資 <p>月面ランダーを開発 2023年4月に上場</p>	 <p>アストロスケール</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年10月投資 <p>スペースデブリの除去 軌道の安全性の維持</p>	 <p>スペースシフト</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年12月投資 取締役派遣 <p>SARデータ解析に 特化したAIの開発 ソリューション開発</p>	 <p>GITAI</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年2月投資 取締役派遣 <p>宇宙空間において 汎用作業を行う ロボットの開発</p>	 <p>ALE</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年2月投資 2022年1月投資 <p>人工流れ星による 宇宙エンタメ デブリ化防止技術</p>	 <p>ワープスペース</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年3月投資 取締役派遣 <p>中継衛星による 衛星間光通信ネット ワークの構築</p>
<p>AXELSPACE</p> <p>アクセルスペース</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年4月投資 取締役派遣 <p>小型衛星コンステに よる高頻度地球観測 データの提供</p>	 <p>Pale Blue</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年8月投資 取締役派遣 <p>超小型・小型衛星 向けの水を推進剤 とした推進機</p>	 <p>Synspective</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年10月投資 <p>小型SAR衛星の開発 からデータ利用 まで一貫して行う</p>	 <p>インフォステラ</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年10月投資 取締役派遣 <p>周回衛星向けGSaaS プラットフォーム</p>	 <p>アークエッジ・スペース</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年2月投資 <p>6Uの超小型衛星の 開発・運用サービス</p>	 <p>スペースデータ</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年7月投資 <p>衛星データを基に 機械学習で3DCGの 都市を自動生成</p>

3.これまでの取組み：④“フロンティア”としての知見ご提供



- 専門チームとして培った知見を各パートナーの個別投融資検討や産業調査時にご提供。
- 四半期レポートにて重要テーマを設定し深掘り分析。

投資先企業等の情報を詳しくご説明

(四半期レポート分量:約60~70頁)

宇宙ビジネスの動向を要望に合わせてご説明

(個別勉強会向け資料:約10~50頁)

株式会社XXXXX

初期中間報告 (概況)

投資先企業の状況

巻頭レポート 第3回 日本の宇宙政策の動向等について

2021年1月-3月期 四半期レポート

SPARX Space Frontiers Investment Limited Partnership

2021年1月-3月期 四半期レポート

SPARX

＜運用者・無限責任組合員＞
スパークス・イノベーション・フューチャー株式会社

＜私募集取扱者＞
スパークス・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）346号
加入協会： 日本証券業協会
一般社団法人 投資信託協会
一般社団法人 日本投資顧問業協会
一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

スペースデブリの削減

スペースデブリ削減に向けた各国企業の取り組み

商業の二酸化炭素 (CO2)、メタン (CH4) 観測衛星

温室効果ガス等の観測における各国企業の取り組み状況

GHGSat

JAXAの温室効果ガス観測衛星

JAXAが運用・開発中の地球観測衛星（温室効果ガス）（2019年7月時点）

地球観測衛星とセンサ

2023年までの地球観測衛星ミッション一覧（2020年末時点）

NASA EARTH FLEET

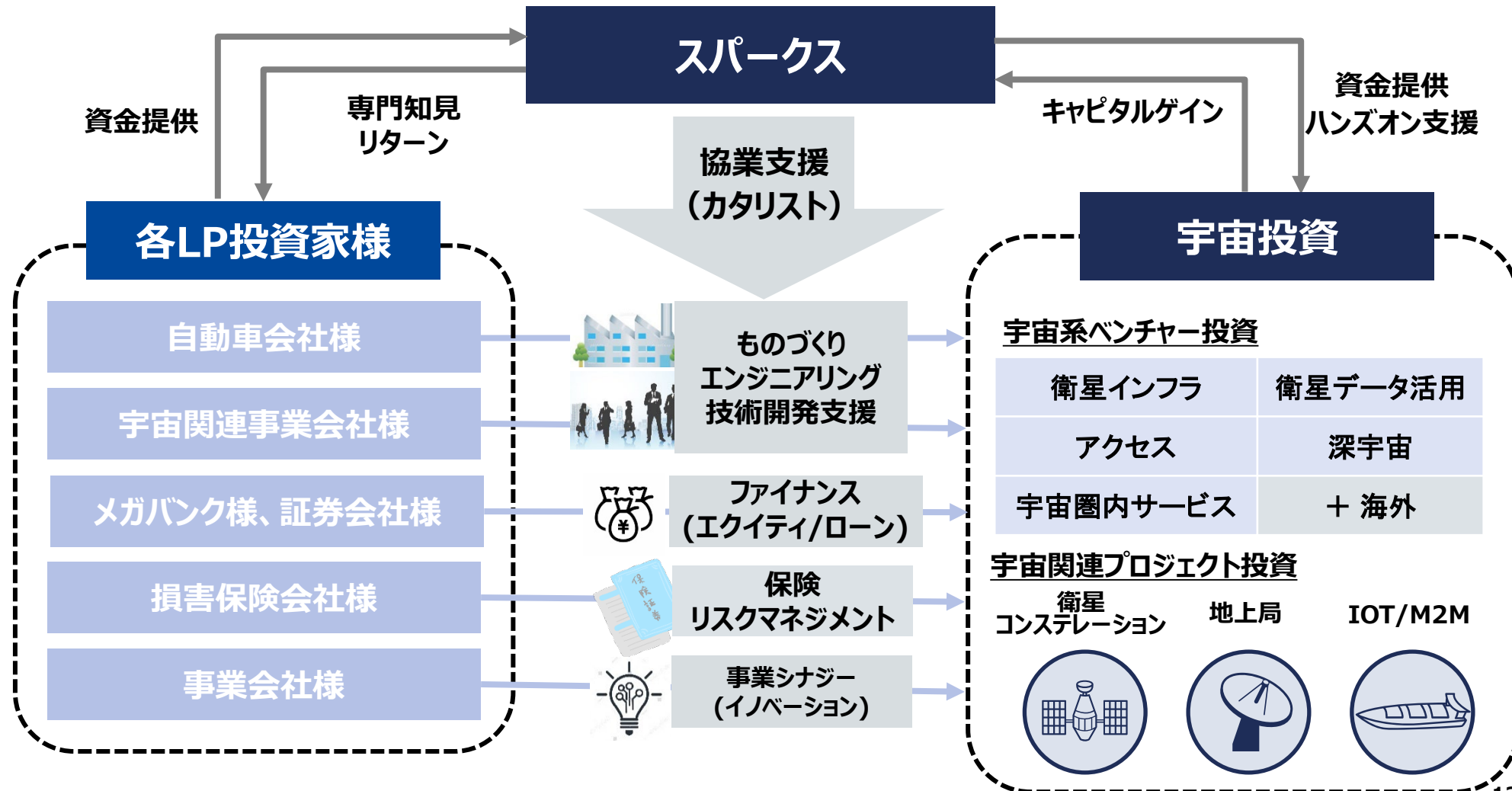
地球環境問題と衛星利用

SPARX

For Discussion Only

3.これまでの取組み： ⑤各パートナー、投資先への協業機会提供等

- 投資パートナー様の事業支援、投資先のハンズオン、潜在投資先を含めた日本の宇宙産業の成長を支援することによるエコシステム形成を目指す。
- 現在までに、勉強会・共同研究・政府との関係構築支援などの機会を提供することで寄与。



參考資料

私たちは、スパークス・イノベーション・フォー・フューチャー。
SPARXグループの一員です。

SPARXグループは1989年、
『世界で最も信頼、尊敬されるインベストメント・カンパニー』
を目指して創業しました。

そのためには、「お客様が何を考え、何を求めているのか」を理解し、奥に隠れたニーズにも適切に応えていくことが大切だと考えています。独立系の国内運用会社であればこそその柔軟性を生かし、何の制約も受けることなく、お客様のために行動します。

また、私たちは「お客さまの大切な資産運用を預かる者」としてフィデューシャリー・デューティーを全うします。運用会社として日本初の上場企業であることを誇りに、私たちはこれからも広く社会から信頼、尊敬されるインベストメント・カンパニーを目指し、挑戦を続けていきます。

2018年2月、スパークス・グループ(以下、当グループ)は国連が支援するPRI(Principles for Responsible Investment : 責任投資原則)の署名機関となりました。



当グループは1989年の創業来、独自のボトムアップ・アプローチを通じて長期的な価値創造の観点から優れた企業への投資を行ってまいりました。また、投資先企業の企業価値向上に貢献すべく、投資や積極的な対話を通じて、株主として支援を行ってまいりました。当グループが行ってきたこれらの活動は、PRIが掲げるESGを考慮した投資の意思決定及び所有方針と基本的に同じ方向性を共有していると考えています。PRIの活動開始から10年が経過し、啓蒙から実行へと活動実態を移行させていく中で、よりよい社会構築への影響力を高めようという方針が明確になってきたことに共感し、この度、当グループは署名の意思決定を行いました。

SPARXグループ代表者



阿部 修平

スパークス・グループ(株) 代表取締役社長、グループCEO
スパークス・アセット・マネジメント(株) 代表取締役社長



1954年： 札幌生まれ

1978年： 上智大学経済学部卒業

1980年： バブソンカレッジ MBA取得

野村総合研究所 入社

企業調査アナリストとして日本株の個別企業調査業務に従事。

1982年： ノムラ・セキュリティーズ・インターナショナル(ニューヨーク)出向
米国機関投資家向けの日本株のセールス業務に従事。

1985年： アベ・キャピタル・リサーチをニューヨークに設立
クワンタムファンド等、欧米資金による日本株の投資運用・助言
業務を行うとともに、欧米の個人資産家の資産運用を行う。

1989年： スパークス投資顧問(現スパークス・グループ(株))設立
代表取締役社長 就任(現任)

2005年： ハーバード大学 ビジネススクール AMP修了

2011年： 政府のエネルギー・環境会議コスト等検証委員会 委員就任

2012年： 政府の需給検証委員会 委員就任